

ほのぼの苑だより

題字：安岡 敬子 様



町内のお祭りに参加致しました。
ほのぼの苑は、地域との協調を大切にしています。

八郎まつり

八月十六日、八郎まつりに行ってきました。気温が三十度以上の暑さのため、帽子、手拭い、うちわを持参しての出発となりました。昭和庁舎前に到着後、日陰の場所から龍体パレード・太鼓演奏を見学しました。遠くからの見学だったので、迫力が足りないと言いう声も聞かれましたが、出店前では、焼きそばや焼きイカを皆さんおいしそうに食べておりました。来年も入苑者の皆さんに八郎まつりを見学して頂きたいと思っています。

(三浦 正樹 記)



慶應義塾大学 落語研究会

八月九日、大学生四名が落語を披露しにやってきました。毎年、夏休みを利用して、各地を回っているそうです。昨年は京都。今年は秋田が選ばれました。メンバーの三人は東北出身の親を持ち、楽しみにして来たとのことでした。衣装・話しぶりはテレビの笑点そのものです。ちょっと難しいところもありましたが、入苑されている方々と職員の笑い声がホールに響き、和やかな一日でした。

(菅原 哲 記)



ほのぼの苑 ちよつとイイ話

「ほのぼの苑 ちよつとイイ話」
は、苑内での感動する話をご紹介
するコーナーです。

ちよつとイイ話

〳 八月の業務日誌より〵

八月三日（木）

以前、ほのぼの苑に入苑されていた方が、
デイケアを利用されていました。その方は
先日行われた健康まつりで、一緒に花火を
見た方でした。「この間は楽しかったよ。」
と声をかけられ、とても嬉しくなりました。
「良い思い出が出来ましたね。」と話すど、
「そうだね、ありがとう。」と笑顔で話さ
れていました。



八月四日（金）

ある入苑者の方に、奥様が面会に来てお
りました。楽しい時間を過ごされた後、入
苑者の奥様がお帰りになる時、入苑者の方
がその後を追って、「おいも帰る、今なら
まだ間に合う。」と必死に車イスを自走さ
れている姿が印象的でした。もう奥様は帰
られていて、入苑者の方も「ダメだった。」
と戻ってこられました。今後も家族の方に
負けない様に、その方に楽しい時間を過ご
して頂けるよう、声かけやレクリエーショ
ン等を行っていききたいと思いました。

八月二十二日（火）

ある入苑者の方のおかげで、普段コミュニ
ケーションの図りにくい一人の入苑者
の方とたくさんコミュニケーションをと
ることが出来ました。間を取り持つて下さ
った入苑者の方は、以前その方にお世話に
なっていたそうで、その方の面会に涙を流
して喜んでいらっしゃいました。釣り好き
だったとか、話し上手だった等、貴重なお
話を聞くことが出来ました。今後、もつと
たくさんのお話をその入苑者の方と出来
たらいいなあと思えました。普段、発語の
少ない方ですが、積極的に話かけ続けたい
と思います。



八月二十五日（金）

私の友人の一人に、中学校の頃からずつ
と、「美容師になりたい」と言っていた子
がいたのですが、先日、秋田に戻ってきて
いたところに再会しました。話を聞くと、
専門学校を卒業し、今年から美容師として
東京に就職が決まり、働いているそうです。
美容師もまた大変な仕事のように、彼女
の手は指と指の間が痛んで赤くなってい
ました。でも彼女は、本当に今の仕事が好
きなようで、「夢が実現できて嬉しい。」
と言っていました。次の目標は、メイクと
コーディネート勉強もして、十年後には
秋田に自分のお店を持つことだそうです。
私も友人を見習って、きちんと目標を持つ
て、それを目指して努力していきたくと思
いました。



第五回 家族会 議事録

第五回 家族会は、八月二十日(日)午後2時より食堂にて行われました。

先月も一面を使用して、過去に出された質問と回答を掲載致しましたが、ほのぼの苑だよりにて、毎月の質疑応答に関する資料を掲載致しますので、ご参加頂けなかつたご家族の皆さんもご覧ください。なお、次回の家族会は、九月二十四日 午後2時から行います。

◆質疑応答◆

Q東京の特養での事件を受け、ほのぼの苑では、不適切な言動や虐待についてどのように考え、対応していますか。

◎日勤帯には、職員の数も多く、お互いが気を付け注意しあっているが、夜勤帯になると人数も少なく、より気を付けなければならない。ほのぼの苑では、夜間も施設長の出入りがあり、他の施設に比べると監視の目があるため、このような事件は起きにくいと思うが、職員はより気を引き締め、仕事に従事していくように指導している。

Q入浴介助で男性入苑者は男性職員、女性入苑者には、女性職員といった配慮は行われていますか。

◎現状は、男性には男性職員、女性には女性職員という分け方はしていないことを説明。今後、良い方向へ改善していきたいと回答。

Q事故やヒヤリ・ハットなどの対策を行っていますか。

◎ほのぼの苑では、事故報告書やヒヤリ・ハット報告書の提出を重視しており、程度にかかわらず提出されている。毎週、医療事故検討委員会を開き、一週間で起こった事故、ヒヤリ・ハットについての対応策を話し合っている。また、緊急を要する場合は、すぐに検討委員会を開くようにしていると説明。

Qほのぼの苑では年間の目標などを立てていますか。

◎スローガンの内容を伝え、来月初めより朝礼にて唱和することを説明。

不幸せ

「オーシャンビューにはサンセット・・・」

私が幼い頃、夏になると父親はよく宮沢海水浴場に連れて行ってくれました。黄昏時には夕陽がキラキラと水面に映え、大海原の向こうには宝物があるような気がしていました。小学校から戻ると、家の中へランドセルを放り投げ、毎日、自転車で行きまわっていました。家への帰り道、夕陽を眺めては宮沢海水浴場のことを想いました。日本海沿岸部の八郎潟町で生まれ育った私は、「太陽は山の向こう側から昇り、海の遥か彼方へ沈むもの」と思ってきました。そして、「いつかは太平洋に沈む夕陽が見てみたい」という想いは、私を宮城県沿岸部に位置する、とある港町へと車を走らせたのです。今からちょうど一年前の、九月の出来事です。

車を運転すること四時間。私は、その港町の夕暮れの中にたずねていました。静けさの中で海を見つめている私・・・でも太陽は、私の後ろ側にある山の方へと消えていきました。澄み渡る秋空のもと、キツネかタヌキに化かされた気分になりました。

「オーシャンビューにはサンライズ・・・」

地形の関係もありますが、太平洋沿岸部では、太陽は海の遥か彼方から昇り、山の向こう側へ沈んでいくのが一般的だそうです。

男性の皆様。奥様や恋人、ガールフレンドに、「太平洋に沈む夕陽を、見せてあげたいんだ・・・」。そう囁いて夕陽を見に行くと、開いた口が、塞がらなくなります。ご注意ください。

編集後記

前号では、誌面の都合上、編集後記を掲載するスペースがありませんでした。

前号より表紙の写真を大きく見て頂きたいと思い、レイアウトの変更を行いました。今号からは題字を入苑者の方に書いて頂き、表紙に掲載致しております。前号まで『幸福』という記事も、今号から『不幸せ』と名称を変更し、笑える失敗談のような話を掲載しております。決して不吉な黒猫ではありません。

前号からの継続記事としまして、家族会の質疑応答についての内容を掲載しております。今後も家族会で、どのような話し合いが行われたのか掲載致します。

また、次号掲載を予定している、驚くようなアイデアを形にするため頑張っています。

今後も色々な形で苑内外の出来事をお知らせしていこうと思っております。

(カ)

発行



医療法人 正和会

介護老人保健施設 ほのぼの苑

〒018-1401

秋田県潟上市昭和久保字街道下 92-1

電話 018-877-7115 FAX 018-877-7481

ホームページ

<http://www.seiwakai-akita-nol.or.jp/>

編集責任者 加藤 稔樹

発行責任者 小玉 敏夫